

## 地球温暖化現象と感染症

開催日 平成 14 年 10 月 5 日

講 師 本学教授 森 松 伸 一

1991年から2000年までの10年間は世界規模でみて過去最高の平均気温を記録した10年間であった。このためシベリアのツンドラ地域の永久凍土がとけ出したり、氷河の後退、南極や北極の氷がとけ出したりしはじめている。現実に国土の大部分が低海拔であるフィジー、ツバル、モルディブなどの海洋国家では海面の上昇により砂浜の侵蝕が既に進行しつつあり、観光が主産業であるこれらの国々では深刻な問題となっている。

18世紀の産業革命以来、人類は石炭・石油などの化石燃料を大量に使用して炭酸ガスを大気中に放出してきた。さらに冷蔵庫やエアコンなどの冷媒や、精密機器やコンピューターの洗浄用としてフロンガスを使用してきた。これらの温室効果ガスがそのまま大気中に増え続けると地球の温暖化はさらに進行し、西暦2300年までに海面の上昇は80数cmになると予測され、このことによる国土の狭小化以外に世界規模の気象の変化が起こるであろうといわれている。すなわち我々の住む日本でも局地的な豪雨が起る一方、乾燥する時には全く雨が降らないといったように雨季と乾季がはっきりと分かれてくるようになる。現在の亜熱帯から熱帯のモンスーン気候に似てくると思われる。これらの異常気象は既に我々が経験しつつあるところであり、皆も気付いているのではないだろうか。

さて地球の温暖化がそのまま続けば（炭酸ガスやNO<sub>x</sub>、フロンガスなどの排出抑制を行ってもしばらくは続くと考えられている）、さまざまな地球規模の感染症の拡大が起こることが予想されており、我国においてもこれまで見られなかった新しい感染症や過去に一度なくなっていたものが再び見られるようになると思われる。これらの感染症は現在、亜熱帯から熱帯地域の途上国にまん延しているものが多いが、これらの感染症以外に温暖化に伴う動物、特に鼠族の生息域の拡大やある種の蚊を代表とする媒介節足動物（ベクター）の侵入、拡大を考慮する必要がある。今回はそのうちの代表的な疾患および注意すべき疾患について原因、感染経路、対策などについて概説することにする。消化器細菌感染症と蚊媒介感染症および人獣共通感染症に分けると理解し易い。

消化器細菌感染症ではコレラ、腸チフス、パラチフス、細菌性赤痢などの感染症に注意が必要である。

蚊媒介感染症ではマラリア、デング熱、日本脳炎、ウエストナイル熱などがある。

地球温暖化に伴う感染症の拡大を防ぐためには病気そのものを知るとともに、感染経路を知り、常に流行に注意することであろう。また遅きに失した感はあるものの普段から炭酸ガスなどの温室効果ガスの排出を低減すべくリサイクルに努めたり、公共交通機関を利用したりするなどの我々個人個人の地道な努力も大切ではないかと思われる。